

第6回戦略会議レポート

2018/1/15 10:30~12:30
松之山自然休暇村センター



清水先生より

国の予算は18億、5割補助となる。国の施策のメインはインバウンド。単独市町村ではなく雪国観光圏でしっかり取り組んで。雪国観光圏は、日本版DMOであり世界水準が一番近い。10年間やってきたことに自信をもって活動を。

各WG 29年度の動き

■雪国文化県有WG 佐藤座長

・11月に開催したシンポジウムのお礼と報告(別紙)
内閣府が観光振興を盛り上げていこうという動きがあり、WGでも文化財を保全しながらいかに観光に取り組み、地域振興に活かしていくかという論点で議論を続けてきた。
次年度は雪国の街道と石仏をテーマに進めていきたい。

■食のブランドWG 岩佐座長

・第6回 魚沼食の学校 報告(別紙)松田美智子さんの講演はわかりやすくよかった。南魚沼市広報に掲載し、地元参加者からも満足との感想があった。広く市民に参加頂くチャンスになる。参加費の件では要望に応えられないこともあるが、あえて意識の高い人に活動を伝えていきたい。次年度の進化を考えていく。

■スノーカントリートレイルWG 田中ディレクター

・11・12・1月に3回WGを実施(別紙 議事録でご確認を)
・プレスリリースは'18年3月20日にブリッジ新潟にて開催。
・オープンは2018年7月予定から9月8or9日に調整中。
オープン前にはすべての許認可をクリアにしたい。MAPと最低限の道標・マーキングを既存看板につける。
→みなかみ町 JRとの関係では12月に協議をはじめ良い方向に進むのでは。
→田中D:環境庁もWGにお招きするが出席いただけず、後から課題が出てくることもある。
→湯沢町 苗場山山頂部は長野事務所の許可も必要だが昨日取れた。谷川連峰は見込み・JRは再確認。

雪国観光圏の理念

『100年後も雪国であるために』

ひとつずつでは埋もれてしまう地域資源を発掘し、つなぎ合わせ、磨き上げることで世界に通用する価値を生み出す。

雪国観光圏のブランドコンセプト

『真白き世界に隠された知恵に出会う』

■二次交通WG 永井課長

・今年度検討目標はgoogle mapの登録。課題は2つ。GTFISで制作するマンパワー・制作コストの負担。
湯沢～森宮の原線テスト登録については振興局で費用を持ち、効果検証を予定していたが事業者同意が得られず。コスト削減策の提案を行い検討して頂く。
バス事業者の負担が少ない形で登録をすすめるため、ジョルダンを検討中。
→湯沢町:登録費用はいくらくらいか。
→回答:1路線2万円ほど。修正には7~8千円。掲載すると継続的に費用が発生する。

■女性コーディネイター研究会 細矢

・女性視点で考えることが重要。コンセプト・内容・ターゲットを意識し話し合いながら考えて進めていく。
こころ冬春の旅行商品を1つ掲載した。

WG総括／清水先生

・文化と観光をつなぐシンポジウムは有意義だった。全国的にも初の取組で、保全を中心とする文化庁とお客様を楽しませたい観光庁とで建設的な接点がなかったが、雪国でお互いの価値を尊重し、高めあう話ができただことは非常に大きい。せつかくの機会だったので多くの方に参加して頂きたかった。



【雪国A級グルメについて】
加盟施設のレベルは非常に高くなってきている。

■加盟店の変化

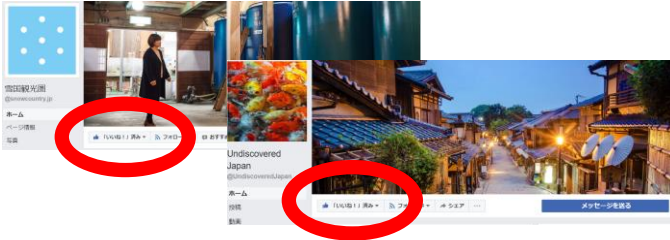
しんばし:加盟前は北海道産蕎麦4割。現在は湯沢4割・南魚沼と小千谷が各2割。けやき苑は食ベログで新潟県No1、龍寿しも世界的に有名に。

課題:参画数・ハードルが高い等。
星の付け方をリセットし、雪国の食文化を守り地元食材を使い情報交換をしながら努力するという表明で加盟という風に基準を変えていく予定。加盟したから送客されるわけではなく、店主の意識が変わり努力して店舗をよくしていくことが重要。



ブランディング事業／フジノ氏

- ・UDJブランドチーム担当者の再確認について。
- ・総選挙の投票結果が出ていますのでご確認を。
- ・FacebookおよびUndiscovered Japanページへの“いいね！”をお願いします。



SCFについて／フジノ氏・滝沢氏

- ・SCFネクストステージ:新ブランディングブック創刊情報発信のツールとして評価いただいているが、冊子制作過程で観光協会スタッフ等の人材育成を行う。
- ◎観光協会スタッフ等編集部員の情報編集力の向上。
- ◎観光圏独自の価値を地域に落とし込んで自分事としてとらえる力を身につける。
- 南魚沼市:SCFの写真をアーカイブで美術展や有料貸出が出来ないか。(フジノ氏:ありがたい話)
- 井口代表:編集員人選は。役場とか一般公募も可能か。岩佐さんにもご協力いただき自由人編集ノウハウを。(フジノ氏:現場で情報発信に関わっている方。12回会議に出られる方。今後も地域の情報発信に関われる方)

次年度事業について／フリートーク

- 井口代表:そもそも、観光圏って何? A級グルメって何?という一般の方々にとって頂くための住民の意識啓発が重要。フォーラムやテーマ別勉強会を行い、地域に次のリーダーを育成していく。
- 湯沢町:国の予算がある前提で予算組を直した方がいい。担当者・課長が集まり計画策定と事業の検討を。
- 南魚沼市:緊縮財政の中で国の補助金をどうするかという予算の組みなおしを是非。
- 魚沼市:同じ考え。事業の中で住民啓発や人材育成について、一緒に考えていきたい。
- 十日町市:人材育成が重要なので引き続き取組んでいきたい。緊縮財政なので担当者で考えて支出するように。
- 栄村:担当・課長会議等で煮詰めていくということなので。
- みなかみ町:広報が足りず、今後町の広報誌等に載せPRLしていく。人材育成に関してSCFの提案はありがたい。

各プロジェクトの進捗状況 その他 奥田ほか

- サクラクオリティ 今年度28(新規10)、KPIは100施設。春～秋に説明会、秋に審査。フォローアップの資料を参画施設に配布。宿自身が気付かないことが設問になるなど、改修のアドバイスとしても使用している。
- スーパー民宿支援プロジェクト 32施設。湯沢町 原観光協会で説明会を行った。
- 食の品質認証制度:岩佐座長より『食が街を変える』後援会を5回行ってもらった。行政とプレイヤーが意見交換できる場を。
- ロシアエージェント向け講演会が行われた。
- 全国観光圏推進協議会の活動 1月25日JTB GMT第一部プレゼン／第二部商談会

井口代表より

- 食を活かした地域作りに対して住民に意識を向けてほしい。勉強会は、それが目的ではなく雪国に暮らす人々の意識を高めていただくのが目的。お客様に地域を語る要素(ストーリー)を観光圏としていかに提供していくか。これが観光の大切な資源となる。事業者はどう声かけをして推進していくか、当事者意識を持ってもらうか。皆様、どうか住民の意識を変えるお手伝いをお願いします。



清水先生から

- 26日に全国観光圏協議会があり来年度補助事業の概要について説明があるためしっかり聞いて対応を。個別の自治体でやること、一緒になってやることの峻別が重要。日本版DMOは41、候補法人が133。全国の観光協会の約1割、70の観光協会がDMOに変わりつつある。新潟県では新発田・長岡・妙高など。長野は全市町村が今までのやり方(観光協会の在り方・行政予算の使い方)を見直すところから始まる。ニセコが小樽余市と連携してきた。雪国もそろそろそんな議論が始められるように。

※次回戦略会議は、2月28日(月)13時30分～湯沢町役場で開催予定。
※レポート内敬称略。

連絡先:一般社団法人雪国観光圏事務局
新潟県南魚沼郡湯沢町大字湯沢2431-1
TEL:025-785-5353 FAX:025-785-6767